

『11月15日田宮流居合講習会』



コロナ対策により、2部制という事で午前中に参加致しました。宗家、小野先生、輿石先生、山田先生、宗家のお弟子さん（名前分らず）、吉池先生のお弟子さん2人、私の8人で始まりました。準備運動として、合気道の膝行（しっこう）や片膝を着いた姿勢から後向き、前向きを交互に行ったり、下半身強化の運動が主でした。

居合の刀の振り方は、振り上げた刀を、刀の重みで下ろすくらいで良いとの話でした。リキミを相手に悟られると、躲かれて反撃を受けるスキとなる、刀は元々切れるので、致命傷にならなくても、当たっただけで相手の戦意を下げる事が出来る武器だと言う事、抜刀や納刀の時に少し触れただけでも自分を傷つけてしまう経験をしている方も多いのでは？と宗家は話していました。

時間の余裕があまり無かったので、（業の講習は）表の一から七までとなりました業は全て刀を持たなくとも柔術で再現出来、同じ動きで敵を制する事が可能だと宗家が実践して下さいました。

日夜研究しているとの話で、一つの業で70程の柔術バリエーションが考えられるそうです。居合としての身体の動きは、刀が先に動き、それに身体がついていく様な、そして流れる様なリキミの無い自然な動きで、業を行う事。

空想の相手がハッキリ見えると言う人がいるが、普通は中々そこまでにはならないので、相対稽古で敵との距離感を掴んでほしい、木刀で少し体を外して、当たらない状態でも稽古になる。慣れれば正面でも行う事が出来ると説明されました。

合撃打ちも敵との距離感の訓練として日頃からやってみて欲しいとの事でした。

残心の重要性を話した後、七本連続で抜いたのち、1人の方の審査会となりました。

宗家が日々色々な研究を重ねておられる事は大変な努力だと、少しは私もその居合に対する姿勢を見習わないと感じました。

小野先生、輿石先生は午後講習会参加という事でした。輿石先生は清水先生の顔を見られなかったことを何度も残念だと私に声を掛けて頂きました。吉池先生も不参加でした、手術を受けたばかりだそうで、早く復帰される事を願っております。今回の講習会は短い時間となりましたが、心剣放光会がフルスペックの講習会を再開出来る日を心待ちにしております。